

平成21年 第3回定例会一般質問

○議長 横尾 武志君

9番、松上議員の一般質問を許します。松上議員。

○議員 9番 松上 宏幸君

皆さん、おはようございます。9番、松上でございます。通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

件名につきましては、全国学力テストについてであります。文部科学省は8月27日に、小学6年生と中学3年生を対象に今年4月に実施した3回目の全国学力学習状況調査等の結果を発表しました。

それによりますと、都道府県別の平均正答率上位は、3年続けて秋田県や福井県などほぼ同じ顔ぶれで、小6は大阪など下位から中位に浮上し、過去2年間は小中全科目で最下位だった沖縄県が平均との差を縮めるなど一部で変動が見られると、このように報じてました。

同じように福岡県教委も、全国学力テストの県の正答率を公表しています。それによりますと、過去2回は全国平均以下だったが、今回初めて中学3年生の国語Bで0.3ポイント上回った。ただし小学校では、全国平均2.5ポイント下回る分類もあった。全国平均との差が目立ったのは、小学校の応用力を見る活力Bの問題で、国語Bでは2.5ポイント、算数Bでは1.6ポイント下回ったと報じています。

こうした学力テストの結果を踏まえ、以下の点について質問いたします。

一つ、福岡県の小中学校の平均正答率は、一部を除きすべて全国平均以下という結果が出ていますが、全国で何番目ぐらいに位置していますか。また、芦屋町の小中学生の知識や活用、学習状況調査等はどのような位置づけにありますか。

二つ目、これまで3回の学力テストにおける芦屋の小中学生の正答率に関する問題点や課題は何ですか。

三つ目、学力テストの結果を踏まえ、学力向上に関する今後の対策はどのように考えておられますか。

以上、3点を質問し、これで1回目の質問を終わります。

○議長 横尾 武志君

執行部の答弁を求めます。学校教育課長。

○学校教育課長 鶴原 光芳君

学力テストについてお答えいたします。

まず、1点目、県の平均正答率が全国でどのぐらいの位置にあるのかということ。それから、

芦屋町の小中学生の知識や活用、まあ、この知識というのが、このテストでいけばA問題と言われるものでございます。それから、活用というのが応用力を試すようなB問題ということになるんですが、それと学習状況調査等の結果はどのような位置づけになるのかという1点目のお答えでございますが、先ほど議員言われましたように、今年4月21日に全国一斉に学力テストが行われました。その結果が8月28日に文科省のほうから、公表されたということでございます。

文科省から全国の順位というものにつきましては公表はされておられませんけれども、新聞報道等の資料から福岡県の順位を求めてみました。それによりますと、小学生の国語A、これは基礎基本というようなところなんです、これは32番。国語Bにつきましては44番、算数Aは36番、算数Bは33番というようなことで、47都道府県中、結果的には少し下位のほうに位置するのかなというようなことになろうかと思えます。

それから中学生では、国語Aは36番、国語Bは26番、数学Aは43番、数学Bは39番というふうになっております。

次に、芦屋町の位置づけでございますけれども、県平均と比較しますと小学生の国語ABとも、これはほとんど県平均と変わらないような状況にあるということ、算数Aにつきましては今年度の結果はやや高く、算数Bはやや低い結果というふうになっております。

それから中学生では、国語ABともやや低く、数学のABは低い状況にあったという結論が出ております。

学習状況調査につきましては、全国平均と比較しまして、小学生では「難しいことでもおそれずに挑戦している」、「自分にはよいところがある」、「将来に夢や希望を持っている」等で平均を上回るポイントが出ておる反面、「朝食を毎日食べますか」という質問では、これは答えとして79.8だったんですが、全国平均と比べましてマイナス8.7ポイント。それから「学校の授業以外、普段一日どのぐらい勉強していますか」という質問では、「2、3時間やっていますよ」と答えたのは14.1で、全国平均よりマイナスの14.6ポイント。それから「学習塾で勉強していますか」という問いには、「学習塾に通っていない」というのが69.9で、全国平均より17.7ポイント低い数字というふうになっております。

それから中学生では、小学生と同じく「難しいことでもおそれずに挑戦している」、「将来に夢や希望を持っている」等で平均を上回るポイントとなっている反面、「一日どのぐらいテレビやビデオを見ますか」という問いで、「4時間以上」と答えた生徒が24.7ポイントで、全国平均より5.7ポイント高い数字。それから「学習塾で勉強していますか」という問いに「学習塾に通っていない」という生徒が57.1で、全国平均より20.4ポイント低い数字というふうになっております。

要旨1の質問については以上でございます。

次に、要旨2、これまで3回行われました学力テストにおける芦屋町の小中学生の正答率に関する問題、課題は何かということですが、これ過去3回やっておりますので、芦屋町の正答率を全国平均、それから県平均と比較しますと、各年度によって成績に当然のことながらばらつきがありますので、一概にこうだということとは言えません。

ただ全体的に見て、小学生では国語、算数のAB問題とも全国、県とそう大きな差異はないというふうに思っております。中学生につきましては、国語ではそう大きな差異はございませんけれども、数学A問題で、やや低い、それからB問題につきましては低いかなという評価をいたしております。

具体的には21年度の結果の詳しいものにつきましてはこれから分析をやるということになりますので、ここでは20年度の結果から課題なりをお知らせいたしたいというふうに思います。

まず、小学校の国語では、読むことに課題があるという見解をしております。算数では応用力に課題がある。それから、中学校の国語では言語事項、これにやや問題がある。それから、数学ではABともに数と式、数量関係、そういうところに問題があろうという考え方をいたしております。

次に、要旨の3、学力テストの結果を踏まえて、学力向上に関する今後の対策はどのように考えているかということですが、これは文科省もずっと言ってる、新聞紙上でも書いてあったことですが、今回のテストにより判定といいますか測定できるのは、学力の特定の一部であるということ。それから、学校における教育活動の一側面にすぎないということでありまして、余り過敏に反応するのはいかがかというふうな思いはございますけれども、結果は結果として、これを受けとめまして、今後この結果を十分に活用して、芦屋町の教育及び教育施策の成果や課題等を把握、検証し、その改善を図り、児童生徒一人一人の学習状況の改善や学習意欲の向上につなげることが重要であるというふうに考えております。

現場の先生方には、これまでも学力アップのために大変な努力をいただいておりますが、先生方がさらなる研さんを積んでいただき、基礎・基本の反復指導や個々の学びに応じた学習指導の工夫等を図っていくとともに、問題解決、探求の課程を取り入れた教育にも取り組んでいきたいと考えています。

以上です。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 9番 松上 宏幸君

1回目の質問に対する説明を受けましたが、総じて低い方向にあるなというふうな受けとめ方をしたわけですが、そのことについてはとやかく言うつもりはございませんが、文部科学省

は、序列化や過度な競争をあおるとして、その都道府県教委が市町村や学校別のテストの結果を公表しないように求めているわけでありますが、学力向上を図りたい一部の府県（埼玉県、大阪府、鳥取県）では、独自に公開を始めている。

一方では、この文科省はですね、市町村教委や学校がそれぞれの結果のみを公表することについては、地域や市、学校、それぞれの結果のみを公表することについては、地域住民に対する説明責任を果たす、そういう意味では望ましいのではないかと。一方ではこういうふうな説明をしておるわけであります。

そこで、08年度の数値を何らかの形で公表した市区町村は35.6%というふうに報じられております。そこで芦屋町については、今概略という形で説明されたんですけども、この公表についてはどのように考えておられるのか、お伺いしたいと思います。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

この公表の問題でございますけども、今議員おっしゃいましたように文科省もそのように、学力検査の目的がそういうことございませんで、実態を知って、それを今後の教育政策に生かしていくというのが大眼目でございますから、それを公表するということについては、文科省のほう望ましくない。ただ情報開示等いろいろ出てきたもんですから、一方では点数を知ることで切磋琢磨したいという気持ちも十分わかります。私たちもそういう思いは一方ではあるわけですけども、個別の学校、個別の成績、結果を出すということにつきましては、やはりいろんな問題が出てくるだろうという心配がありますので、私は、個別の学校の成績を出すということについては、その態度をとらないと思っております。

芦屋町の場合に、例えば小学校は3校ございますから、芦屋町小学校の結果というのは、これは出そうと思えば出せますけど、中学校は1校でございますから、これはちょっといろいろ課題が出てくるのが予想されます。学校の教員にはすべて生の点数を出しておりますから、小中学校4校の教員は、まさに切磋琢磨しております、頑張ろうとしております。

とりあえず、今は公表ということは考えておりません。ご案内のとおりホームページのほうで、概況の形で、生の点数は出しておりませんが、19年、20年度、出させていただきました。本年度もそういう形で出そうと思っております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 9番 松上 宏幸君

確かに狭い町で学校別に発表するという事は、いささか問題もあろうかと、このように考えますが、しかし、やはり町民として、それはやっぱり芦屋町の学力はどうなのかということを知る上においては、それは確かに中学校は1校ですから、まだなかなかできにくいかと思えますけれども、できれば小学校ぐらゐは芦屋町としての成績はどうなのかという程度の公表はしてほしいなど、一応これは要望しておきたいと思えます。

次に、テストの結果についても、いろいろ説明を受けたんですけども、特に児童・生徒が依然として知識の活用、応用問題や記述に弱い面がある。これは芦屋も似ているんじゃないかなと思うんですけども。例えば、みずからの体験や見聞をもとに説明する能力については身につけているけれども、例えば、図表やグラフなどのデータから情報を読み取り、それを記述する力が不十分なことが、3回の調査の結果で浮き彫りになったと、こういう発表がされておるわけですけども、芦屋町もそういう傾向になるんでしょうか。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

今議員のおっしゃいましたのは、先ほど課長が申しましたBの活用というところでございまして、どのような趣旨の問題が出てるかとお申しますと、例えば国語では、「伝えるべき内容を整理して文章に表現すること」、今までのテストはどちらかというところ、漢字を入れるとかいうことで、自分の言葉等を文章で書くというようなことはなかなかなかったわけです。しかし、そういうことを求められる。それから筆者の主張を評価したり、表現を工夫しながら自分の考えを書いたりする。要するに表現力を問われています。算数、数学にしても「図やグラフから必要な情報を分類して整理比較するなどして問題の解決に役立てる」と、そういうことが。これはですね、学力をどう見るかという一つがございまして。

かつて学力は日本の場合は、知識の量が学力だというふうにとられてきて、随分いろんなことを教え込んでまいりました。しかし、知識は大事なんですけれども、それだけではどうもいかならんんじゃないかというのが出てまいりまして、それがいわゆるPISA型の学力と言われるものでございまして。これはOECDがやっているテストでございまして、世界20カ国以上の国が参加しておりまして、このPISA型というのは、その知識をもとにして実生活の中でその知識をどう生かしていくか、そういう力を見ようとする、このあたり日本の子どもたち非常に弱いと言われております。

ですからAにつきましては、これは文科省は全国平均の上下5ポイント以内はまず大丈夫ですよとこういつてまして、芦屋の子どもたちも全部5ポイント以内に入ってます。むしろ全国平均より1、2点上の中の5ポイント入っているんです。Bになりますと、15ポイントから20ポ

イント近く下がっている、これは全国的な子どもの傾向なんですけども、芦屋の子どもたちも、そのようにBについては非常に低い。

これはちょっと長くなりますけど、一つは先生方がそういう指導を今までしてこなかった。そういう発想がなかったわけです。今慌てて今回の指導要領も、まず習得という、これは基礎・基本をしっかり習得せよと。これは今までやってきました。習得から探求という、その知識を生かして突っ込んでいくという、その間に活用という形で入れていって、それをどういう活用するかということ、そういうことを今回の指導要領にどんどん入れまして、今学校が遅まきながらそういう方向に変わりつつあると。しかし、なかなか教員の意識を一気に変えるのは難しゅうございまして、随分いろいろ言ってますけど、まだまだでございまして、それがさっき課長が申しましたように、教員の資質をさらに高めて頑張りたいという意味でございまして。

以上です。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 9番 松上 宏幸君

次に、過去2回の成績が低迷し、「何だ、このざまは」と激怒した橋下知事の陣頭指揮で学力向上に取り組んだ大阪。その結果、中学生は前年並みだったけれども、小学生の国語Bの平均正答率が45位から34位に上昇し、「心配で夜も眠れない」と言っていた橋下知事が「正直ほっとしている。取り組んだ成果が多少あらわれていると思う」と、このようにコメントしておりますけども、これについての感想はいかがでしょう。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

まあ橋下知事が喜ばれたというのは、ご同慶の至りと言っていいのかわかりませんが、芦屋町の場合はですね、実は過去2年間よかったからといたしますか、14年度からフロンティア事業に取り組んでまして、子どもたちの学力は確かに上がってまいりまして、右肩上がりに上がりました。そこは主に、ここでいうAの学力を主にやってまいりました。基礎・基本を徹底的にやってきました。で、ちょっとみんな、先生方も、そういう面で自信を持ってましたけど、今回の低いのは、特に中学校が5ポイントを超えて、低いんです。これは非常に危機感持っています。

ただ、何と申しませうかね、これは非常に難しいところもあるんですが、私たちは今まで芦屋の子どもたちに「塾に行け」とは言いませんけど、通塾率が非常に低い。それでもこんなに点を上げているというのはある程度、私は先生と子どもたちががんばっていると思っています。しかし、今回、下がってまして、それは「塾に行け」という話じゃございませぬけども、改めてね

じをもう1回巻き直して、頑張れ、頑張れというのは簡単でございますけども、やっぱり現場のいろいろなこともあります、先生方も一生懸命になっておりますので、何とか回復するだろうというふうに思っています。

頑張りたいと思っています。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 9番 松上 宏幸君

この大阪府知事の発言に対して、大阪の教育委員会の幹部の方々が、「非常にいいプレッシャーになってよかった」と、このように振り返っておるわけですが、反面、現場の先生、例えば小学校の場合は、「順位が上がったのはたまたまでないか」、「もっとじっくり子どもに向き合わせてほしい」、「テスト対策優先に取り組むよりも、現場に余裕が生まれる教育行政を求めている」、また、中学校の教員については、「現場は悪戦苦闘している」、「点数が低いからといって頑張っていないと簡単に言ってほしくない」、このように反発しております。

やはり学校現場と一体となって取り組まないと、本当の意味での学力向上にならないかと、このように私思うんでありますがいかがでしょうか。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

おっしゃるとおりであるというふうに思っております。今、学力は確かにどういう学力を求めるといのが非常に問題だろうと思っておりますが、今回指導要領変わりましたが、「生きる力を育む」ということは変わっておりません。その生きる力というのは何かということですが、実社会とか実生活で生きる力、そこで生かして行ける力です。生きる力をこういうふうに言っております、それは「知・徳・体」のバランスのとれた人間をつくっていかうということで、ずっと日本の教育がやってまいりました。

ところが、どうも最近では「知・徳・体」の中でも「徳」、豊かな心がベースになるだろうと思います。このベースの中に、確かな学力だとか、健やかな身体が入ってくると。「知・徳・体」の中でもその中心は心だというふうに私も思っています。ですから、そういうふうに優れた学力と体力を持った人格的に立派な人間をつくっていかうと、こういうふうに思うのであります。そのために学校じゃどうするかということでございますけども、確かに学校現場はいろんな問題が起こっております、私たちが現場にいたところに比べますと随分いろんなことが入ってきました。先生方、大変ご苦労されている。

文科省が残業時間、教員には残業がないんでございますけど、超過勤務の手当もございません

が、大体何時間ぐらいやっているかという、3時間ぐらい、毎日3時間ぐらいは平気でやっているというようなことでございまして、大変ご苦勞されてますけども、そうは言いながら頑張らにゃいかんというところで、いかに仕事を精査していくかということが私たちの仕事だろうと思いますが、なかなかそこはうまくいきません。これもあれもやろうとこう欲張るばかりでございまして、これはどうやっていくことが一番いいのかということがよくわかりませんが、先生方にご努力願う以外にないんですけども、教員には環境を整えるし、その上で子どもたちには頑張らせねばならないと思います。これは学校だけではどうにもならないところがございまして、学校・家庭・地域が連携を図って、芦屋で言いますさわやかプロジェクトという形で、学校・家庭・地域と連携を図りながら、さわやかな若者を育てようとやっておりますので、ぜひこれは先ほど課長の中で言いましたように、ノーテレビ、ノーゲームと言いながら、4時間以上見てるのがこんなにたくさんいるというデータもあります。また朝飯、朝食も食べてないのが7ポイントも低いという実態がありますが、こういうような日常生活の中を地域や家庭として改善していただけるかが問われています。

今回の文科省のテストでも、いろいろな生活環境と学力と密接な関係があるということは、どんどん言われてますから。そのあたりはやっぱり、ぜひとも皆様方のお力をいただきながら、学校としても頑張っていきたいとこういうふうに思っております。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 9番 松上 宏幸君

次に、課題の問題に移らさせていただきたいと思いますが、学習環境や生活環境を尋ねるアンケートの調査から、学力テストを意識して宿題をふやしたり、規律の維持に力を入れようとする学校の姿が見られると、このように指摘もされとるんですけども、芦屋町としてはいかがでしょうか。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

私は、この学力検査を目当てにして特段の行動はしておりません。子どもたちの学力はどの辺にあるかというのは、非常に興味があるし、芦屋町ではこの学力検査という言い方では毎年2月の初めにCRTというテストをやっています。これは一年間の成果の到達度を見るテストでございまして。これは小学校の1年生から6年生まで全員やっております、一年間どうだったと。

それから、中学校はそのCRTやりませんが、中学校は当然高校入試等がございまして、入学直前のテストから今回もやりました夏休みの課題テスト、それから学力検査等々年間4回、学

年によってちょっと違います、4回から5、6回のテストをやっています。そこらをもとにしてデータ見てますので、文科省の学力テストに向けて特段のことをやったということはございません。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 9番 松上 宏幸君

次に、国語の学習が将来社会に出たときに役に立つと思うかという問いに、肯定的に答える児童・生徒は減り続けるなど、学ぶ意欲の減退は依然として大きな課題だと、このように指摘をされておりますが、芦屋の子どもたちはいかがでしょうか。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

福岡県でも教育力向上県民運動というのがあります。福岡県の子どもたちの四つの基本的な課題というのを上げていまして、その一つに「学ぶ意欲」が上がってます。そして学ぶ意欲の低下、それから規範意識の低下、自尊感情の低下、体力の低下、この四つが福岡県の子どもたちの基本的な低下しているもんだと、これはもう福岡県だけじゃないと思いますけど、まあ福岡県はそうやって県民運動を今やっております。

学ぶ意欲が低下しているというのは、じゃあどうやって回復するかということなんですが、いろいろ考えられますけども、体験活動をたくさんやりましょうということで、今回もそういう意味から芦屋町では通学合宿をやろうとして生涯学習課が中心になって、芦屋小学校区育成会員の方々が中心になって、あさってから通学合宿に一週間入ります。そういう体験活動を通す中で自分に自信を持たせると、今回はわずか11名ですけども、そういう取り組みや、それから学校では、いろんな体験を積極的にさせておりますので、そういう体験を通す中で自信を持って学ぶ意欲を育んでいこうと、あわせて確かな学力をびっちりつけることは、学ぶ意欲につながるだろうというふうに思ってますので、今のところはそういう取り組みをやっております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 9番 松上 宏幸君

携帯電話で通話やメールをほぼ毎日している割合というのは、小学校6年生で前年度よりも1.6ポイント、中3では0.4ポイント減少していると報告されておりますが、これは校内持ち込みを禁ずる動きの拡大が影響してると見られております。電話を持たない中学3年生の生徒は、

ほぼ毎日していると答えた生徒よりも数学Aで6.5ポイント、数学Bで7.6ポイント平均正答率が高かったと。このように報じています。

この件につきましては、芦屋町は既に全国に先駆けて脱ケータイ宣言を発し取り組んでおりますだけに、その成果はあらわれつつあるんじゃないかなと、このように思うんですけどもいかがでしょうか。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

成果といいましょうか、子どもたちの携帯電話につきましては、私たちは脱携帯でやってまして、家庭でルールをつくりましょうと、親子でしっかり話しましょうというようなことを眼目でやりました。本当は持たないでいいに決まってるんですけど、そういうわけにはいかない状況もあります。で、「持たない勇気、持たせない愛」という形でやりました。

一番の成果はこういうデータがあります。今回の学力検査の中で出てきてる中で、「携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」と、こういうことです。「きちんと守ってる」というのは26.0、これは全国平均より11.2ポイント高い。それから「大体守ってる」、そこまでいくと、これ16.9%、あわせて42.9%の子どもたちが守っていると、まあ半数は守っていると。これは全国平均に比べると6.2ポイント高い。そういう点が出ておりますので、携帯の所持率につきましては全国とほぼ変わらないところがありますけども、そういう意味で親子で話し合いが始まったということは、一つの成果であろうというふうに思っております。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 9番 松上 宏幸君

今の話でありましたように、今成果が上がってるというふうに受けとめておきたいと思います。

次は、「新聞やテレビのニュースに関心が高いほど、国語、数学ともに正答率が高い傾向が見られる」と、このように分析されております。芦屋町ではテレビを見る時間がかなり長いんですけども、その中でも新聞やテレビのニュース、こういうものをどのように見ているのか、芦屋町の子どもたちが、そういったものに関心があるのかどうか、そこら辺についてちょっとお伺いしたいと思います。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

先ほど課長も申しましたように、4時間以上見ているのが相当数いるわけですね。この中身は、どういう番組を見てるかというまで調査しておりませんので、しかし、まあ4時間以上というのはやっぱり多すぎるだろうと。大体中学生でしたら、部活のない子で4時半から5時に帰宅します。部活の子どもたちは7時ぐらいでしょう。それから食事して、風呂に入るなどすると4時間という、もうほとんど寝るまで見ているのではないかという気がしてなりません。

このあたりはやっぱり、ノーテレビ・ノーゲームを始めた一つは、やっぱり学習時間が少ないこと。子どもたちの家庭での学習時間。それを確保しましょうということが一番大きな、私たちとしてはねらいでございました。あわせて読書活動を進めようとかいうことをやってみましたので、そういう点では、ここらは非常に改善の余地があるというふうに思ってます。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 9番 松上 宏幸君

次に、3点目に入らせていただきます。福岡県教委は第1回目（07年実施）の結果、公表後の08年の2月に学力向上新戦略を打ち出し、①教員の指導力を上げる研修、②早寝早起き等の生活習慣の指導、③学力に課題のある市町村などへの派遣講師などを実施してきたと。その結果、全国との差は縮まる傾向にある。今後も実践を継続し、全国レベルまで引き上げる。と決意を述べております。

芦屋町では、この学力戦略について、どのような戦略、指導を受けられたのかお伺いします。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

1番は、「ふくおか学力アップ推進事業」というのを、県がやっています、私たちもそれに手を挙げて入ってます。幾ばくかの補助金も出ますから、そういう関係もありまして、これをやってみました。

一番のこの中の目玉は、学力向上検証委員会というのをつくっております。その学力が本当にどうやって上がっているのかどうなのかと検証していこうと、もちろん学校の先生も入ってますが、やっぱりヒットはPTAの方が入っていただいております。やっぱり教員ではない目で見ていただく中で学力検証をやる、もちろん教育委員も入ってます。

あわせて教育委員会といたしましては、町の議会、そして町当局からのご理解もいただく中で、いろんな先生方の加配をいただいております。少人数に対応する形での35人学級だとか、それから特別支援学級に対する介助員だとか、ALTが二人いるとかいうようなことで、できる限りきめ細やかな指導をしていこうという体制はとっておりますし、学校現場に先生の資質向上とい

うのが非常に大事なんですが、これにつきましては町独自で職員研修会をやっています。小学校の先生には特に実技関係、音楽、体育、小学校英語活動、それから理科の実験、このあたりは夏休みに芦屋町独自の研修会をやっております。

それだとか、後はいろんな面で担当者を集めまして推進をしておりますので、何とかご期待に沿うようにやっていきたいというふうに思っています。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 9番 松上 宏幸君

次に、北九州市が9月3日に、全国学力テストの市内の結果を発表しています。それによりまして、すべての科目で平均正答率が全国平均や県の平均より下回った。全国平均、県平均以下は3年連続であった。子育て、教育日本一を目指しているだけに今回の結果を受けて、有識者グループに検証を求め、その結果を今後に生かしたいと話しています。芦屋町としては、このテストの結果を公表しないということではありますが、今後の対応について、先ほど検討委員会をつくってということではありますが、公表しなければ、どのような形で検討し、対応しようと考えておられるのかお伺いしたいと思います。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

利用ですかね。

○議員 9番 松上 宏幸君

はい。

○教育長 中島 幸男君

冒頭に申しましたように、各学校のデータは公表するつもりはございませんが、検証委員の方には公表しております。そこで、生のデータがないと、実際どうだというのがわかりませんから、そこらはちゃんとやっておりましたが、広く公表ということは考えていません。課題を明らかにする中で解決を図ろうと思います。具体的には、日々の授業をどう変えていくかということ以外ないわけです。ですから、そういう日々の授業のあり方と、あわせて家庭学習のあり方、そのあたりが中心になるわけです。

そして、生活状況をどう変えていくかと、その3本柱でいく以外ないと思っておりますので、これは検証委員会の中で検証しながら、結局、例えば小学校でございまして、先ほどCRTというようなお話をさせていただきました、2月にCRTのテストを実施します。このテストは相当分母が大きいテストですが、この結果は、全国平均をかなり上回っています。

一番私たちが問題にしてるのは、このCRTというのは3段階評価、大きく見てAというのは「満足」、Bは「おおむね満足」、ここまではいい。Cは「努力を要する」、子どもたちがいるわけです。私たちは義務教育ですから、このC判定の子どもたちをどう上げていくかというのが仕事だと思っています。で、Cは今8%前後いるんです、1割を切っております。このC判定のこの8ないし9%の子どもたちを、夏休みや放課後、個別の指導をしております。

もう一つは、この8ないし9の中には、特別支援の発達障がいの子どもたちも入っているんです。で、文科省が出したデータでは6%強、発達障がいの子どもたちがいるというデータが出ておりますから、やはりそれに近づいているなという気がしております、そういうところから子どもたちにはやっていこうという。

それから、中学校はですね、高校入試がもうしっかり目の前にございますから、今回の3年生は高校入試対策にも早急に入る形で対策を立てていくと、まあそういうことが当面行われるべきかであろうと思っております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 9番 松上 宏幸君

ここに学力向上を成功させたという事例が出ております。その一つは、2年連続で小中学校8科目で最下位だった沖縄県、今回は小学校の国語Bと算数Aで最下位を脱し、ほぼ4科目の正答率が全国平均との差を縮めた。その理由として、好成绩の秋田県と09年度から小中学校の教員の相互交流を始めた。そのほかに授業開始時刻や家庭学習の徹底を取り上げ、全小中学校の授業プラン改革を提出させた。

2点目は、長崎県は、全8科目の試験のうち7項目で全国順位を上げた。県教委は無答対策に取り組んだ結果と見ております。解答欄が空白の無答だった、その原因は、長文を読みこなせず後半の設問までたどり着けていないと、このように判断をして、文章量が多い教材を使うなど、読む活動を徹底させた。このような工夫をこらした2件の事例が報告されておりますが、何も受験対策をしなさいという意味ではないんですけれども、こういう事例が出ておるといことも申し上げておきたいと思っております。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

今回、沖縄県から芦屋にも視察に来られました、今回。芦屋の取り組みを説明いたしました。秋田県にも沖縄県は行かれているようにあります。

多分、いろんな方法を練っていくことしかないんだろうと思いますが、繰り返しますけども、学校、家庭、地域が、皆さんがやっぱり芦屋の子どもは将来芦屋を支えるんだ、大きく言うなら日本を支える子どもたちをどうつくるかということになるんだろうと思いますから、ぜひ心を育つ中で、確かな学力と健やかな身体と言われるところ、「知・徳・体」をどう育てていくかと、教育委員会のみならず、町当局、そして皆様方一緒になって、芦屋の子どもを育てたいと思っていますので、どうぞよろしくご支援を賜りたいと思います。

以上です。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 9番 松上 宏幸君

この学力テストの結果分析で、成績と生活の相関関係が出とるわけですけども、読書が好きとか、宿題をする、朝食を毎日食べる、家の人と学校の出来事を話している。これらは正答率が非常に高い傾向が見られる子どもたちであるというふうに言われております。肝心なのは、子どもたちをどのようにして読書好きになるように導くか、あるいは家庭とのコミュニケーションをどう促すか、そこら辺についての具体策が必要だと、このように指摘されておりますけどもいかがでしょうか。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

おっしゃるとおりで、そのとおりなんでございますけども。それがわかれば簡単な気も一方でいたしますが。今芦屋町は、読書につきましては、生涯学習課が読書推進計画、子ども読書推進計画をつくってまして、もう間もなく出すと思いますが、その中で幼児から、既にブックスタートが行われておりますが、ブックスタートからいかに読書環境をつくっていくかと、そのようなことで、子どもたちは本がやはり好きなようであります。しかし、読書の楽しさに触れ合わないことにはやっぱりだめなようございまして、幼児期にどうやって読み聞かせをしてくれたかと、そこらが非常に問題だろうなと思っています。

それと、もう一つは家庭に本がないうちがたくさんございます。一日の中で学校生活は多く見積もって8時間か9時間ぐらいある。残りは家庭での生活です。学校では子どもたちにできるだけ個別の指導をしながらも、基本的に全員の学力をつけていこうというふうに先生方っております。しかし、一たん家庭に帰りますと、そういう状況ではございません。家庭文化がそのまま子どもに反映しております。よくこのごろは教育の格差ということが言われておりますが、それは事実だと思います。しかし、我々としてはその格差論を言ったってしょうがないわけござ

いますから、学校にいる間は子どもたちにしっかり学力をつけていこうと考えています。

そういう中で、読書やコミュニケーションという話でございますが、やはり家庭での生活をどう変えていくかと、私たちはできるだけ発信をする中で、子どもを健全に育てていただきたい、そのために読書だとか、そういう基本的な生活習慣きちんとなることが大事ですよと発信をする中で、一人でもご協力、ご理解賜るように努力することしかないんだろうと思ってまして、そのあたりは地域の教育力をどう高めていただくかと、そこにつながってきそうでございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 9番 松上 宏幸君

あんまり時間がないんですけども、この学力テストですね、毎年全員調査でやっておるわけですけども、これに対する費用として毎年50億ぐらいかかっておるわけですね。この調査については、全員調査じゃなくて抜き取り調査でもいいんじゃないかと、こういう意見も出ておるんですけども、そこら辺についてはどのように見解をお持ちでしょうか。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

私、個人的な意見しか持ち合わせてませんけども、点数と学習状況調査、相関はもう「わかっている」という話なんです。今のような状況ならば、もういいんじゃないかと、抜き取りでもいいんじゃないかと思えます。むしろ芦屋町でも、さっき申し上げたCRTなど毎年子どものデータをとるのを別のことをやっています。ただ、しかし、何年に一回かぐらいは全国的に見るとどうだということも、それは実施してほしいなと思ってますので、今のところ私、個人的な意見としてはそのぐらいで答弁させていただきます。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 9番 松上 宏幸君

ありがとうございました。

最後に、町長にお伺いいたします。学力とともに緊急の課題は格差などによる機会の不均等だ。こうした問題こそ速やかな調査と対策が求められている。実際に最近の文科省の委託調査では、親の年収差で学力テストの正答率に差異があることが裏づけられておると、このように言われております。

芦屋町ではこうした格差があるかどうか実態はわかりませんが、格差をなくし、教育の機会均

等で有効かつ着実な学力向上策につながる抜本的な対策を立てる必要があると思いますが、最後に町長の見解を伺って私の質問を終わりたいと思います。

○議長 横尾 武志君

町長。

○町長 波多野茂丸君

学力と格差の問題ということのご質問なんですが、非常に難しい問題でお答えするのがなかなか厳しいかなと思うんですが、今るる松上議員のご意見、教育長のご意見拝聴させていただきました。

恐らく松上議員は、新聞紙上張ってありました福岡県が47都道府県から後ろから数えて低いという、私自身も、ある一面ショックを受けたわけではありますが、今お話をずっとお聞きしておると、今教育長が申されましたように、やはり「知・徳・体」、今「知」の部分でクローズアップされておる。

じゃあ一昔前ではどうだったのかということで、「徳」の部、学校荒れてたということで、今芦屋町の子どもたちの現状を見ますと、非常に落ち着いておる。皆様方もご気づきだと思うんですが、非常によくあいさつをして礼儀正しいし、身なりもきちっとしておるということで、私は、県内でも芦屋町の教育は素晴らしいんだと思っております。

よく夏休みが終わって、それから始まる前、先生方、非常に勉強されておりますし——私はやはり、教育長も申されましたように、すべてこれは家庭の問題ではないかと思うわけでありまして。家庭が子どもたちと向き合って、どのぐらい果たして親子の会話をされておるのかというような問題があるわけでありまして。

一部新聞で今言われましたように、高額所得者の高いところが学力が高いとか、そういうような乱暴なマスコミの書き方もあったわけでありまして、芦屋町人口1万6,000、小さな町であります。今自治区加入促進だとか、助け合い協働のまちとか、いろんな形で方向性を示しておるわけでありまして。この教育の問題も、私は、そのことに地域の方々とともに子どもを見守って、そして家庭においては、やはり子どもと親子の会話が十分できるような体制づくりというのが大事であるかと思っております。

行政はあくまでも教育環境、子どもたちが安心して、そして学習できるようなというような教育環境に精いっぱいやらしていただいておりますが、結果として福岡県がこういう状態であったと、芦屋町も、まあまあ県レベルぐらい、平均レベルぐらいは出るのかなと思いますので、後教育委員会さん、しっかり子どもの指導、親の指導をしていただきたいと思います、個人的意見も含めまして答弁させていただきます。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 9番 松上 宏幸君

これで私の一般質問を終わります。どうもありがとうございました。

○議長 横尾 武志君

以上で、松上議員の一般質問は終わりました。